

ESD ファシリテーターズ・カレッジ

今日よりいいアースへの学び

Since 2000 at ERIC for teachers

愛

ESD持続可能な開発のための教育は、この地球に生きるすべての人々にとって必要な、そして重要な学びあいのことです。限られた生態系である地球、限られた資源で共に生きなければならない人類、多様な文明・文化の背景をもつ社会、個性的で自由に創造力にあふれたわたしたち一人ひとりが、どのように共に生き続けることができるか。ともに考えるための「よりよい質の教育」が求められています。

ERICは2000年以来、ESD指導者育成に取り組んで来ています。

・3つのテーマ・3つのスキル

前期 3つのテーマから課題に気づき
後期 3つのスキルで問題解決に迫る

持続可能な社会のための行動力の基礎である
鍵概念を学び、
持続可能な社会をつくるための
鍵となるスキルを身につけます。



・学びあいをサポートするしっかりとした教授法に習熟する



ERICの研修はすべて『学習の本質』に根ざしたしっかりとした教授法に基づいた参加型。指導者育成の方法も、参加によって参加のスキルを身につけ、参加によって参加型学習の真髄を体得していきます。頭でわかっていることがからだですることができるようになるまで。

・ESD GAP グローバル・アクション・プラン

2014年、日本で開催されたESD国連10年の行動計画最終年の諸会合は、これからのグローバル・アクション・プラン(GAP)を採択し、今後もESD推進を継続することを宣言しました。これからのESD発展・充実期なのです。GAPは、以下の5つの優先行動分野に焦点をおいています。

- 政策的支援
- 教育・トレーニングの場に持続可能性の概念を取り入れる（機関包括型アプローチ）
- 教員やトレーナーの能力向上
- ユースの役割支援と動員
- 地域コミュニティや地方政府にコミュニティ・レベルのESDプログラム策定を推奨

【参考1】ESDに関するユネスコ世界会議の開催結果について

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2014/11/26/1353643_4_1.pdf

【参考2】2015年に合意されたSDGs「目標4:包摂的で質の高い教育」についてはこちらから

http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

・PLT GreenSchools! PLT グリーン・スクール!

PLT『木と学ぼう』は2008年から「緑の学校」制度を始めました。水、廃棄物、エネルギー、環境の質、学校立地の五つの視点から学校のグリーン度アップを推進する試みです。

5つの特徴

- ◆教職員全員に専門性向上の機会が与えられている
- ◆PLTおよび環境教育が学校カリキュラムに取り入れられている
- ◆生徒主導のGreen Teamを作っている
- ◆GreenSchools!の5つの調査項目のどれか一つを実施
- ◆調査に基づいて行動計画をたて、取り組み、成果を報告し、お祝いしている。

機関包括型アプローチで環境期養育・ESDをすすめること、サービス学習を取り入れることは、ESDの効果を高め、継続発展させ、持続可能な社会の形成につなげていくための重要な学びです。

・ERIC主催 ESD ファシリテーターズ・カレッジ 2018年度予定

2018年度の日程は以下です。御問い合わせください。

- | | |
|----------------|------------------------|
| ■ テーマ「国際理解」 | 2018年(平成30年) 6月23-24日 |
| ■ テーマ「環境」 | 2018年(平成30年) 7月28-29日 |
| ■ テーマ「人権」 | 2018年(平成30年) 9月29-30日 |
| ■ スキル「わたし」 | 2018年(平成30年) 10月27-28日 |
| ■ スキル「あなた」 | 2018年(平成30年) 11月17-18日 |
| ■ スキル「みんな」 | 2019年(平成31年) 1月26-27日 |
| ■ TEST 教育力向上講座 | 2019年(平成31年)3月下旬予定 |

〈いずれも、土日実施、各回参加費2万円〉

2018年度人材育成研修で取り組みたい要素:「ビジョンの共有」「価値観と行動」「子どもの学びの理解と責任」「変革のための行動力の育成」; キーワード:一貫性、誠実さ、相互尊重

- ・ ESDの目標、価値観とコンピテンシーを指導者自身に育てる、SDGsなど国際社会が合意している「こうありたい未来」を共有する。実現のための阻害要因を知る、問題解決する。
- ・ 子どもの学びにかかわる指導者に「ストック」形成のためのバックキャスティングによるカリキュラム点検力と「フロー」の充実のための手だてを広げる。